

# NEWS LETTER

創刊号  
2013.03

## KIT 男女共同参画推進センター通信

### ご挨拶

京都工芸繊維大学長 古山 正雄



人間の知性と感性の共鳴を求めて、「知と美と技」を探求する独自の学風を築き上げた本学において、豊かな人間性にもとづく男女共同参画社会を推進してまいります。「男女共同参画社会基本法」の理念を踏まえ、全ての学生と教員・職員が相互に尊重しあい、多様な個性や能力を生かしあえる大学創りを目指していきます。

教育と人材育成は大学の使命です。男女がともに持ち味を発揮し協働することは、新たな展望を拓き、可能性を拡大させるはずです。

今後は、KIT 男女共同参画推進センターを中心に、学内はもとより、他大学や関係機関、地域のみなさまと連携協力を図りながら、女性をはじめとする多様な人材の活用や育成に積極的に取り組んでまいります。みなさまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

### 創刊にあたって

KIT 男女共同参画推進センター長 森迫 清貴

男女共同参画の新しい社会に向かって、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に配慮した教育、研究及び環境づくりが求められています。

KIT 男女共同参画推進センターは、本学の男女共同参画推進の拠点として設けられました。コーディネータの配置をはじめとする女性研究者支援体制の充実や教育研究環境の整備のほか、意識啓発活動を展開しながら、女性研究者の採用・登用・育成を強化し、大学運営に女性の視点を生かしていきたいと考えております。

また、女性研究者の比率に関する数値目標を設定し、女性研究者の支援活動の促進とともに、男女ともにひとりひとりの仕事と生活の上に、その能力を最大限発揮できる男女共同参画の在り方を目指し、大学の環境改善、活性化に努めてゆく所存であります。

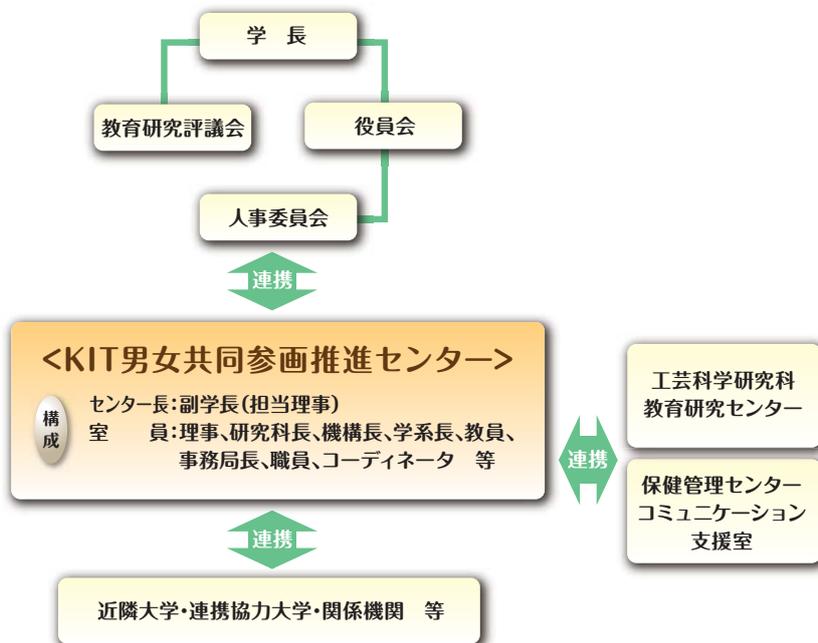
さらに、工科大学としては女子学生の比率が高い本学の特性を踏まえ、女子学生や院生へのキャリアパスなどの研究活動支援や交流促進を通し、次世代研究者の裾野拡大にも重点的に取り組んでまいります。みなさまからの意見や要望をもとに多様な視点で、本学の全ての人々にとって、働きやすく学びやすい環境づくりに当センターを有機的に機能させてまいります。

このニュースレターが本学の教職員、学生のみなさまの男女共同参画について関心を高めていただく機会となることを願っております。



本学の女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう、出産、育児または介護などライフイベントと研究を両立させるための環境整備や研究活動支援事業が、平成24年度文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択されました。

## 男女共同参画推進体制



## KIT 男女共同参画推進センター構成

\*平成24年10月1日現在

センター長 (理事・副学長)	森迫 清貴
コーディネータ	森山 文恵

### ○室員

理事・副学長	竹永 睦生
理事・事務局長	山下 馨
工芸科学研究科長	松野 謙一
教育研究推進支援機構長	森 肇
生命物質科学系長	原田 俊郎
生体分子工学部門教授	亀井加恵子
電子システム工学部門教授	大柴小枝子
建築造形学部門准教授	清水 重敦
言語・文化部門准教授	竹井 智子
人事労務課長	坂口 義美
研究推進課産学連携室 知的財産係長	三宅 由華

## 取組み

- 研究活動とライフイベントの両立支援
- 男女共同参画に向けての意識啓発活動
- 女性研究者ネットワークの構築

## 達成目標

- 女性研究者の在籍比率  
平成26年度 13% 平成27年度 15%
- 女性研究者の採用比率  
平成26年度 33%
- ライフイベント要因の女性研究者の  
離職をゼロに



## 具体的な活動

- 研究支援員制度
- 両立支援相談
- ベビーシッター育児支援制度
- 女性研究者交流促進
- 男女共同参画推進セミナーの開催
- ホームページ等での情報発信
- ニュースレターの発行 など

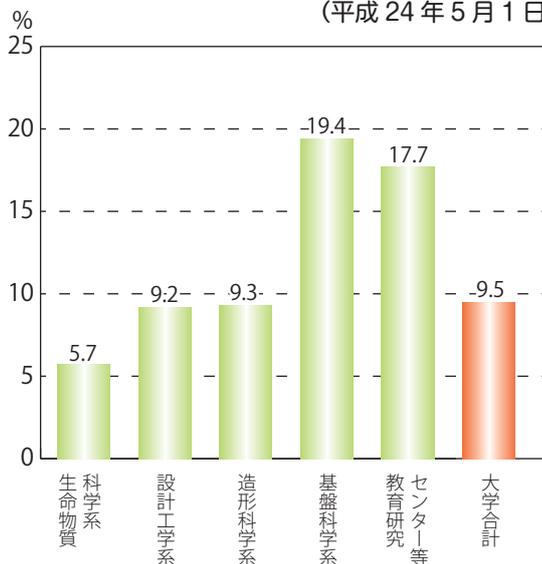


URL <http://www.sankaku.kit.ac.jp/>

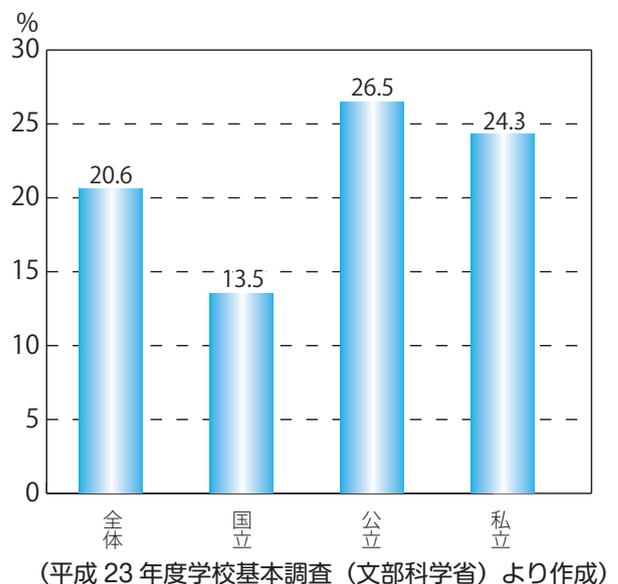
## 女性研究者のデータ

本学の女性教員（常勤教員）の比率

（平成 24 年 5 月 1 日現在）



大学における女性教員の比率（国公立別）



## 男女共同参画社会基本法について

平成 11 年 6 月に、「男女共同参画社会基本法」が制定されました。

〈男女の人権の尊重〉・〈社会における制度又は慣行についての配慮〉・〈政策等の立案及び決定への共同参画〉・〈家庭生活における活動と他の活動の両立〉・〈国際的協調〉の 5 つの基本理念が定められ、それに基づいて、国や地方公共団体・国民の果たすべき責務が明らかにされています。

そして、さまざまな分野への女性の参画を促す数値目標と期限を設けた「第 3 次男女共同参画基本計画」が、平成 22 年 12 月に策定されました。

この計画では、科学技術・学術分野における男女共同参画の成果目標として、「自然科学系の女性研究者を早期に 25%へ。そして、更に平成 27 年度までに 30%へ。特に理学系 20%、工学系 15%、農学系 30%の早期達成を目指す。」としています。

内閣府男女共同参画局HP <http://www.gender.go.jp/>

# 活動報告

セミナー  
実施報告

平成 25 年 2 月 22 日(金)KIT 男女共同参画推進センター キックオフセミナー  
「女性研究者の活躍と男女共同参画社会」を開催いたしました。



平成 25 年 2 月 22 日(金) 午後、本学 60 周年記念館 2 階大セミナー室にて、本学の男女共同参画推進についてのキックオフセミナーを開催いたしました。

古山学長の開会の挨拶に続き、文部科学省科学技術・学術政策局 基盤政策課 人材政策企画官の佐藤弘毅氏より、「女性研究者の活躍をめざして」と題して、基調講演を行っていただきました。

次に、森迫 KIT 男女共同参画推進センター長より、本学の取り組みを紹介させていただきました。女性研究者の比率に関する達成目標や女性研究者の働く環境づくりとして、具体的な支援内容を説明いたしました。

休憩をはさみ、「なぜ大学における男女共同参画推進が必要なのか」と題して、東京学芸大学長の村松泰子氏より、ご講演いただきました。教育が変われば、社会が変わる。教育の男女平等、男女共同参画推進は、大学本来の使命として不可欠であることを学長として実践してこられた経験を踏まえて、お話しいただきました。

続いて、「男女共同参画意識を学内に浸透させるための組織づくり」と題して、岐阜大学副学長であり、男女共同参画推進室長の林正子氏より、ご講演いただきました。男女共同参画宣言と行動計画を策定し、女性教員限定公募や各学部との FD 研修など具体的な取り組みの実例をお話しいただきました。

参加した本学および他大学の教職員の方々より、「女性研究者が充実した研究ができるよう支援制度が図られていると感じ取れた」、「各大学の工夫された取り組みは大変参考になった」、「実態を伴う男女共同参画の実現は難しいと思うが、継続的な試みに期待」など多くの感想が寄せられました。佐藤企画官、村松学長、林副学長をお招きし、男女共同参画推進について理解と意識を深めるまたとない機会となりました。



基調講演の様子 講師：佐藤弘毅氏



東京学芸大学長  
村松泰子氏



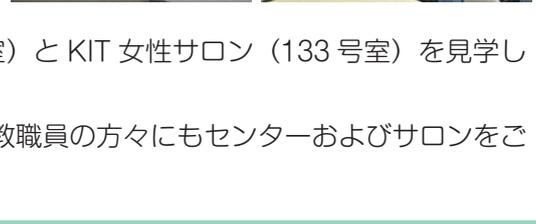
岐阜大学副学長  
林 正子氏

## インフォメーション

センターおよび  
サロンの紹介

平成 25 年 2 月 22 日(金)、キックオフセミナーに先立ち、文部科学省の佐藤企画官、村松東京学芸大学長、林岐阜大学副学長に、本学 KIT 男女共同参画推進センター(本学 2 号館南棟 1 階 134 号室)と KIT 女性サロン(133 号室)を見学していただきました。

また、キックオフセミナー終了後には、参加された他大学の教職員の方々にもセンターおよびサロンをご案内させていただきました。



～応援します！研究と生活の両立～ ◇◇京都工芸繊維大学 KIT 男女共同参画推進センター◇◇

住 所 〒 606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町 京都工芸繊維大学 2 号館南棟 1 階 134 号室  
TEL・FAX 075-724-7757 (内線 7757)  
Eメール sankaku@kit.ac.jp ホームページ <http://www.sankaku.kit.ac.jp/>